

● 洗浄便座の刺激と摘便について

1 洗浄便座の刺激の対象となる人は、どのような人でしょうか。

2 摘便のポイントを挙げてみましょう。

● 洗浄便座の刺激と摘便について

1 洗浄便座の刺激の対象となる人は、どのような人でしょうか。

- 直腸に便が降りてきていて、便意の知覚があり、排便反射を催す人。
- 肛門に水流が当たるように座る位置を調整できる、肛門に狭窄がない人。

2 摘便のポイントを挙げてみましょう。

- 掻き出すのではなく、直腸に指を入れて、栓となっている便の向きを変えたり、指の刺激で排便反射を促したりして、便を出しやすくする。
- とくに自力で出せない人の軟便を掻き出そうと直腸内で指を回しても、便をかき混ぜるだけで、うまく排便させることはできない。また、直腸壁を傷つける恐れがある。
- 指をリードとして、指の腹または背に乗せるようにして、便を引っ張り出す。
- 実施前後に腹部を聴診し、実施前は腸が動いていることを、実施後は腸の動きがおさまっていることを確認する。

● 坐薬や浣腸のポイントについて

1 坐薬のポイントを挙げてみましょう。

2 浣腸のポイントを挙げてみましょう。

● 坐薬や浣腸のポイントについて

1 坐薬のポイントを挙げてみましょう。

- 事前のアセスメントでは、便があることを確認する。
- 硬い便がぎっしり詰まっている場合は摘便を行う。
- 実施前に腹部を聴診し、腸が動いていることを確認する。
- 便の隙間、空間があるところに坐薬を押し込む。
- なるべく奥の方に入れる。
- 坐薬を入れたあとは、便意が強くなるまで待つ。

2 浣腸のポイントを挙げてみましょう。

- 事前のアセスメントでは、硬い便がぎっしり詰まっていないかを確認し、詰まっている場合は摘便を行う。
- 左側臥位で行う。
- 浣腸液は少しずつ入れる。全て入れる前に漏れがあれば、排便反射が起こっているので、カテーテルを抜いて、排便させる。
- 抜いたカテーテルに便が付いていれば、便性を確認する。
- 実施前後・実施中に腹部を聴診する。
実施前は腸が動いているかどうかを確認する。
浣腸液を入れて便が出るまでの聴診で腸が動いていれば、排便があると判断できる。
便が出たあとの聴診で腸が動いていれば、まだ排便があるので、しばらく待つ。
腸の動きがおさまっていれば、排便終了と判断できる。
- 浣腸液を入れても反応がない場合は、指で肛門をタッピングし、尾骨側に開いて刺激すると、出やすくなる。